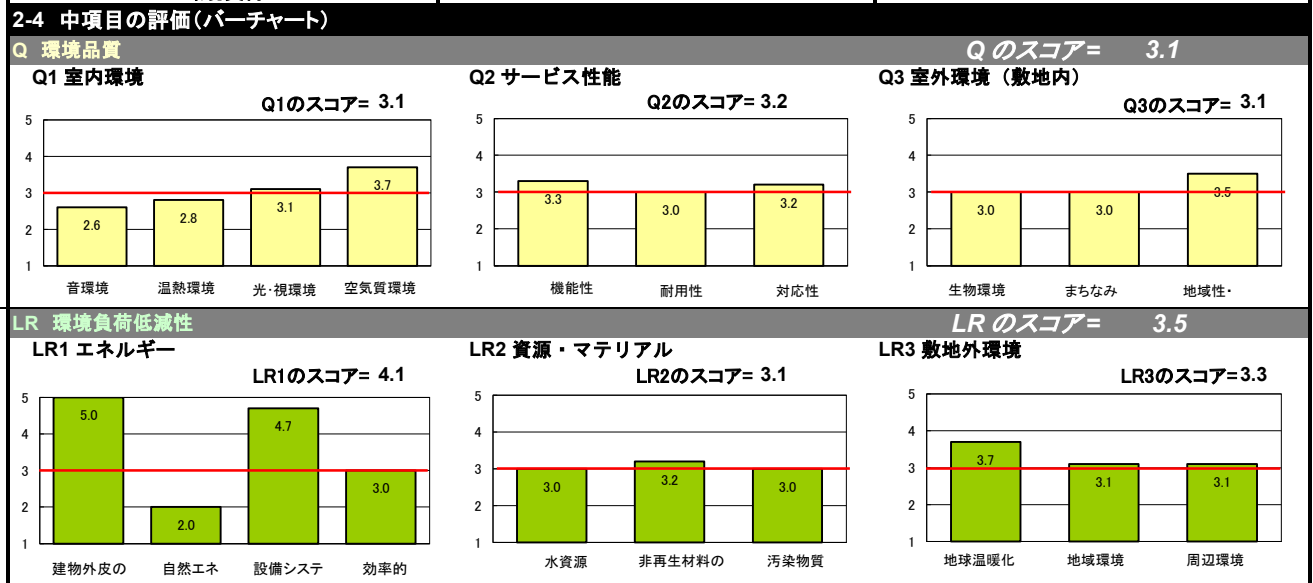
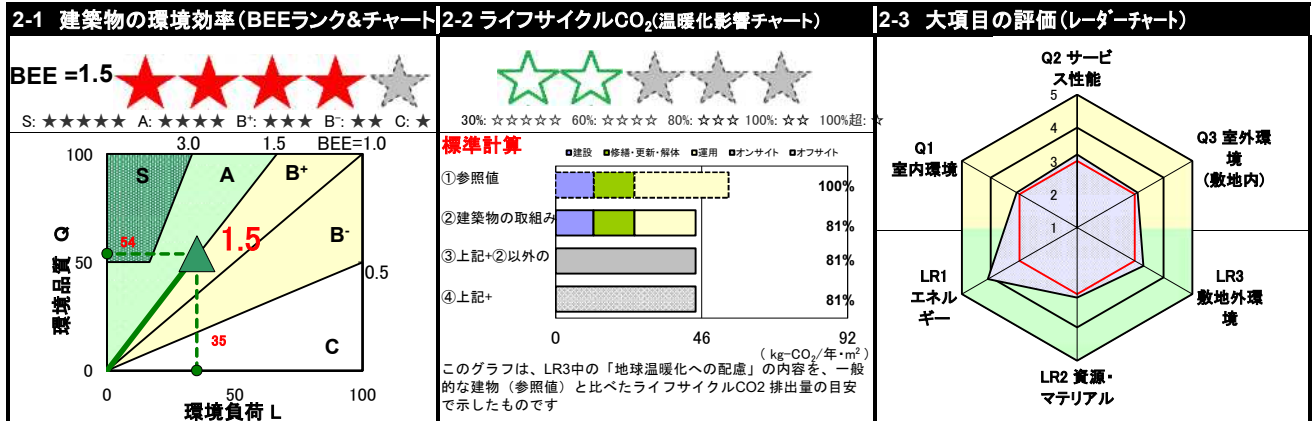


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	藤久保地域拠点施設	階数	地上4F
建設地	埼玉県入間郡三芳町大字藤久保字	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、第一種中高層住	平均居住人員	1,729 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,176 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・学校・集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2024年11月8日
敷地面積	18,900 m ²	作成者	
建築面積	6,506 m ²	確認日	2024年11月8日
延床面積	13,972 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 環境配慮・省エネ・省資源ランニングコスト低減に向けた様々な工夫により、未来への環境配慮施設として、学校教育にも役立て、未来へつなげる環境教育校舎を目指します。		その他 特になし
Q1 室内環境 子どもたちが利用する教室やアリーナは自然通風を積極的に取り組む平面形状とし、自然エネルギーを活かすとともに適切な設備機器の導入により快適な温湿度環境・光環境を形成します。	Q2 サービス性能 ユニバーサルデザインを取り入れて、分かりやすい案内やサインによって子供たちや住民が利用しやすい施設とします。	Q3 室外環境(敷地内) みらい通り、鎌倉通りには高木を植樹し、並木道のような緑あふれる景観を形成します。建物全体をまとめる門型の形状は誰でも直観的・視覚的に建物の入り口が分かる親しみやすい形状とします。
LR1 エネルギー 外壁・開口部の断熱強化、動的熱負荷計算による熱源容量の最適化等の工夫により省エネルギーを図ります。	LR2 資源・マテリアル 主要水栓に節水コマを使用します。内装壁には乾式壁を積極的に採用し、躯体と仕上材が容易に分別可能として、部材の再利用可能性向上を図ります。	LR3 敷地外環境 光害対策および防犯や周辺環境との調和に配慮した照明計画により、敷地周辺も含めた良好な光環境の構築を図ります。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
藤久保地域拠点施設

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.1
Q1 室内環境			0.40		-	3.1
1 音環境		2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル		2.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.52	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.21	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.13	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.13	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.8	0.35	-	-	2.8
2.1 室温制御		2.7	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.52	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.35	-	-	
3 ゾーン別制御性		1.0	0.13	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-	
1 昼光率		3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.21	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度	各室の用途に応じた適切な照度の確保および分布を確保した	4.0	0.17	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.33	-	-	
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	内装材には☆☆☆☆以上を採用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	敷地全体が禁煙	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.2
1 機能性		3.3	0.40	-	-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.01	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.01	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.98	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	可能な限り天井を高くし、パースで広さ感を検証しながら計画	3.1	0.34	-	-	
2 リフレッシュスペース		2.0	0.01	-	-	
3 内装計画	インテリアパースの事前検証等を行いながら計画	4.0	0.64	-	-	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した内装材の選定、外装詳細を計画	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		2.4	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		2.3	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	使用の多い給水・排水管材にてB以上を採用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		4.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	空調、換気設備は耐震・BCPに配慮した計画とした	4.3	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	給水はBCPに配慮した計画とした	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備	避難所の運営に必要・有用な設備をコスト考慮しつつ導入	4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	避難所の運営に必要・有用な設備をコスト考慮しつつ導入	5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり		3.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	4.0	0.42	-	-	
2	空間の形状・自由さ	3.0	0.58	-	-	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性		3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	4.0	0.20	-	-	
キュービクル、空調外調機等、更新用の予備スペースを確保						
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		3.5	0.30	-	-	3.5
下に同じ						
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
設計時にワークショップを行い地域住民の使い方を要望を反映した計画						
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		5.0	0.20	-	-	5.0
高効率機器の採用、省エネ制御により省エネに配慮した						
2 自然エネルギー利用		2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		4.7	0.50	-	-	4.7
[BEI][BEIm]: 0.65						
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
-						
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
-						
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.20	-	-	
躯体と仕上材が容易に分別可能な計画(躯体+軽鉄+仕上材)						
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		3.7	0.33	-	-	3.7
高効率機器の採用などエネルギー消費を抑制しLCCO2削減に寄与						
2 地域環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
駐車場台数の確保、アクセスしやすい駐車場配置						
3 周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音	3.0	0.33	-	-	
2	振動	3.0	0.33	-	-	
3	悪臭	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	3.0	0.63	-	-	
2	砂塵の抑制	3.0	0.13	-	-	
3	日照阻害の抑制	3.0	0.23	-	-	
3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	4.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	
ポール灯を最小限にとどめ、必要な箇所に照明を配置						

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	藤久保地域拠点施設	BEE	1.5	BEEランク	★★★★
------	-----------	-----	-----	--------	------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.7	+	3.0	=	6.7	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満		良い 6.0以上		非常によい 6.8以上	
				すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.7
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.7
<配慮した内容を記述> ・設計1次エネルギー消費量を極力抑えることでLCCO2の削減に配慮します。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
・四季を感じることでできる樹木などを植栽し、緑豊かな環境を作るとともに、児童や利用者に緑を身近に感じられるよう計画します。 ・鎌倉通りは西側敷地も含め高木を配置し、みらい通りとともに並木道の景観となるように演出します。 ・植樹する樹木は、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」に示される緑化樹木としてよく使われる在来植物を基本として選定します。 ・室外機などの設備機器は屋上10m以上への設置を基本とし、地表面への排熱配慮を行います。			

 : 入力欄